

ケア研通信

コミュニティケア教育研究センターとは

名寄市立大学の理念の一つである社会連携・社会貢献の基盤を整備・充実するとともに、教育―実践―研究の橋渡しにより本学の教育研究活動のさらなる充実を支える組織です。

名寄市を中心とした道北地域との連携協働により、保健医療福祉、保育、教育、産業振興ならびに地域活性化等に関する課題発見および解決に取り組み、地域貢献に資する教育・研究の充実・発展を図ります。

教育

第23回道北の地域振興を考える講演会

コミュニティケア教育研究センターでは、「道北の地域振興を考える研究会」と共催し第23回道北の地域振興を考える講演会「北海道北部における観光と地域の未来」を開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

日 時 2021年3月4日（木）15：00～17：00

開催方法 YouTubeライブによるライブ配信（無料）

第1講演 原文宏 氏（一般社団法人北海道開発技術センター・理事、地域政策研究所・所長）

演 題 モビリティから見た観光と地域の未来

第2講演 辻 亮多 氏（リバートリップキャメル・代表、美深町在住）

演 題 天塩川から見た観光と河川の未来

※どなたでも参加可能ですが、3月2日（火）までに以下のリンクから必要事項を入力して送信ください。YouTubeライブ視聴に必要なリンクをお知らせします。

参加登録フォーム（<https://bit.ly/37eYhQG>） スマホから→

連絡先 道北の地域振興を考える研究会事務局

担当：名寄市立大学 教養教育部 今野聖土研究室

TEL01654-2-4194（代） / Email m-konno@nayoro.ac.jp



ボランティア依頼や地域交流イベントの情報提供はこちらへお願いいたします。まずはお気軽にお問い合わせください！

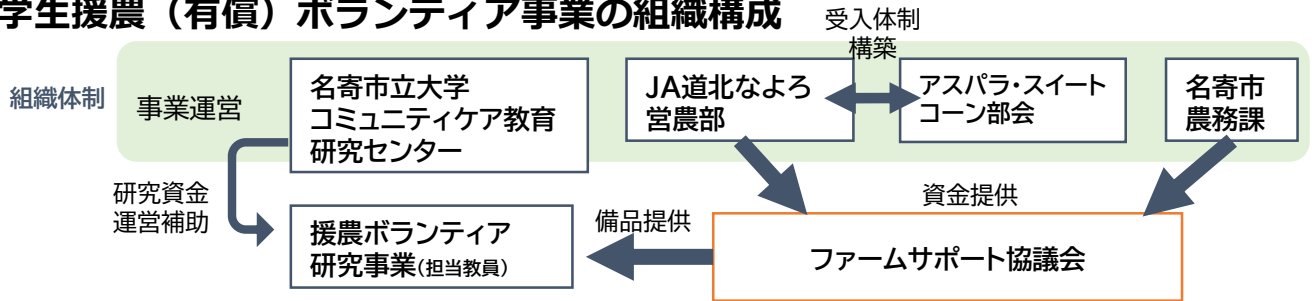
TEL 01654-8-7661 FAX 01654-2-0070

Email tiiki@nayoro.ac.jp



コミュニティケア教育研究センターでは、2018年度より関係機関の協力の下、学生援農（有償）ボランティア事業を実施しています。大きな目的は3つあり、①昨今の労働力不足によって名寄の特産物であるアスパラやスイートコーン、かぼちゃの管理・収穫作業を行うパート作業員が不足しているため、それを支える仕組みの一つとして②学生が農作業に参加し農と食について考えるきっかけをつくることで、自身の食生活の見直しや専門職として食の大切さを伝えられる人材になって欲しいとの願いから（＝食農教育）③多様な人材が多様な形でより良く農業で働くためにどのような仕組み作りが必要なのか研究するため、となっています。下記のような組織構成で実施しており、コミュニ

学生援農（有償）ボランティア事業の組織構成



ティケア教育研究センターは、研究事業として資金面で事業を支えると共に、参加学生の募集や調整、作業従事条件の提案など、担当教員（教養教育部：今野聖士准教授）とともに中核的な役割を果たしています。年間のべ約500名が参加するなど、地域農業にとって重要な役割を担うようになってきました。この事業は単なるアルバイトではなく、

学生援農（有償）ボランティア事業の実績

受入農家側も趣旨を理解し教育者として参加頂くことで成り立っています。両者の評価も好評である事から次年度以降も継続実施し、地域と学生の橋渡しを進めて行きます。

援農(有償)ボランティア事業

実施時期	1期:5月中旬～7月上旬(土日のみ)	主にアスパラ
	2期:8月中旬～9月末(夏休み中)	主にスイートコーン、かぼちゃ
募集範囲	名寄市立大学の学生、学年学科問わず	

実績	2018 1期	2018 2期	2019 1期	2019 2期	2020 1期	2020 2期
受入農家戸数	11戸	8戸	16戸	11戸	14戸	10戸
参加学生数	36名	31名	49名	45名	46名	37名
延べ従事人日	112人日	351人日	291人日	530人日	375人日	225人日

